

\*\*\*\*\*

日本産業洗浄協議会 メールマガジン 第 86 号

\*\*\*\*\*

第 86 号をお送り致します。

ワクチン接種効果でしょうか。ようやく第 5 波が収まりつつあるようです。

毎回 3~4 カ月周期でほぼ対称形に感染者数が増減するようですが、次の波もまた来るとい  
うことでしょうか。ワクチンの有効性で封じ込めると良いのですが、これからは with-コロナの時代を  
覚悟しないとイケないのかもしれない。

皆様、くれぐれもご用心ください。

今月は、(1) トピックス:

【第 5 回洗浄技術検定 認定テキスト好評販売中】

(2) 連載:東西対決 JR 環状線「渋谷駅」

(3) 投稿:『渋谷栄一とフランス万博』~ (ペンネーム:Premier Avril)

\*このメールは、日本産業洗浄協議会の各種イベントでお預かりしたメールアドレス宛にお送りし  
ています。不要な方は、末尾にてその旨ご返信下さい。

.....  
(1) トピックス  
.....

【第 5 回洗浄技術検定 認定テキスト好評販売中】

第 5 回洗浄技術検定の認定テキストが 9 月 10 日に販売開始となりました。

東京会場で実施していた 1 級・2 級の事前講習会に代えて、より要点をつかみやすい構成とし、  
テキスト購入者からは専用メールで質問を受け付けます。

受験勉強を早めにスタートするとともに、日ごろの業務の参考書としてもご活用いただくため、受  
験予定者おひとり 1 冊のご購入をお勧めします。

お早目のご購入、受験準備開始をどうぞよろしく願いいたします。

複写使用はご遠慮ください。

今後の予定は下記の通りです。

2021 年 10 月 29 日(金):マイスター受験申込×切

2021 年 11 月 10 日(水):1 級・2 級試験 オデッセイ社の関連ページ開設

2021 年 12 月 10 日(金)~2022 年 1 月 31 日(月):1 級・2 級試験 申し込み及び受験

2021 年 12 月 17 日(金):洗浄マイスター試験

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.jicc.org/kentei/>

各種手続きも簡単に行うことができます。

.....  
(2)連載:東西対決 JR 環状線 「渋谷駅」 (ペンネーム:SJ)  
.....

渋谷で待ち合わせといえば、やはり“ハチ公”前が定番ですよ。

では、そのハチ公のお友達“あおがえる”のことを知っておられる方はどれぐらいいるのでしょうか？

ハチ公が見つめる先に設置されている電車・東急 5000 系電車がその“あおがえる”です。かわいらしい丸みを帯びたフォルムで、緑色塗装をされている事から“あおがえる”という愛称で呼ばれるようになったようです。

“あおがえる”は 1954 年 から製造され、渋谷・桜木町間を走る通勤用電車として採用されました。鋼鉄製の車体でありながら、当時としては最新の合金技術とモノコック構造で車体の軽量化を図った、超軽量車両として活躍しました。1980 年代まで東急で現役活躍し、東急電鉄の車両更新に伴い地方ローカル線に譲渡されました。

渋谷ハチ公前に設置された“あおがえる”は 5000 系の第 1 号車「5001」、1993 年に上田交通でのお仕事を終え、廃車されたのち、2006 年渋谷駅に帰ってきました。

ハチ公前に設置後、2013 年から外国人観光案内所として活用され、多くの外国人観光客から“Green Flog Train”と親しまれていました。

渋谷の“あおがえる”は残念なことに、渋谷の大規模開発の為 2020 年 8 月、ハチ公の出身地である秋田県大館市にお引越してしまいました。大館市に移設後の“あおがえる”は渋谷にいたころのようにたくさんの人に囲まれておらず、ちょっと寂しそう、、、ですが、大館市を訪問の際にはぜひ“あおがえる”を慰労してあげてください！



ちなみに、渋谷ハチ公も移動するとか、、、今までと同様、沢山の人がに囲まれた渋谷らしい場所に移設されることを祈るばかりです。

.....  
(3) JICC クルーによるリレーコラム Vol.17

～『渋沢栄一とフランス万博』～ (ペンネーム:Premier Avril)

.....  
仏ル・mont紙が伝えたところによると、渋沢栄一がパリ万博を訪れていた当時、日本とヨーロッパ間の文書のやり取りは船便であり、片道 3 ヶ月程度かかっていたが、書かれてから受け取りまで 3 週間足らずの書状が何通か発見されたそうである。

書状を詳しく調べたところ、内容に問題は無さそうであるが、文章として不可思議な表現がそこかしこに見られ、真偽のほどが議論された。

さらに詳しく当時の状況を調査したところ、次のような事実が確認された。

当時、既にイギリスと英領インド間にはフランスを介して電信通信回線が確保されていた。

また、日本とインド間(経由ヨーロッパまでも)は東インド会社などの定期船や東南アジア方面への

イギリス海軍の航路があり、日本とヨーロッパ間の運輸手段と情報網はある程度確保されていた。調査結果としては以下の通りである。

江戸で作成された書状は船便で長崎、英領香港、英領シンガポールを經由して当時イギリス領であったインドに送られ、そこで英文に翻訳されて電信回線で送信され、フランス又はイギリスで再び日本語に翻訳・文書化されて受取人に届けられた、と云う事である。この方法であれば、日本・インド間の船便の日数程度で届く事になり、片道 3 週間での文書のやり取りが実現できた訳であるが、当時の翻訳技術の関係もあり、不可思議な表現を含んだ文書となったようである。それにしても、一文字送信するのに幾らの世界でもあり、長い通信経路であるため、ノイズなどでの障害も多かったはずで、費用的にも技術的にも想像を絶するものではなかったかと推測される。ひょっとすると電信為替なども行われていたのではないだろうか。

因みに、ヨーロッパ主要国内の電信通信回線は 1850 年代には普及しており、イギリス・インド間の電信回線は 1860 年に確保されている。

明治維新の随分前の話であり、日本では飛脚や早馬の時代である。

日本とヨーロッパが電信回線で直接結ばれたのは 1871 年の事であった。



出典 国土地理院ウェブサイト (<https://kochizu.gsi.go.jp/items/276>)